

2012年版中小企業白書のポイント

～試練を乗り越えて前進する中小企業～

第1部では、最近の中小企業の動向について、第2部では、潜在力を発揮し、事業活動を行う中小企業の取組や課題について、第3部では、中小企業が持つ潜在力を発揮するための経営課題について分析を行っています。

今回は、その中からテーマを絞ってご紹介します。

第1部 2011年度の中小企業の動向

我が国経済は、東日本大震災の影響による落ち込みから回復しつつあるものの、円高や世界経済の減速等の影響により、次第に回復の動きが緩やかになってきている。

また、中小企業の景況は、大震災後、持ち直してきていたが、これまでの円高、原燃料の価格高騰、電気料金の引上げ、電力需給の逼迫等の影響が懸念され、2012年に入って横ばいの動きとなっている。

第2部 潜在力の発揮と中小企業の役割

(1) 大震災からの復興と中小企業の役割

内陸部は自動車等を中心に徐々に回復しているが、津波浸水地域では、事業再開は7割に満たない。地域に根ざす中小企業が、被災地の復興、まちづくり等で地域に活力を取り戻すための役割を果たしていくことを期待している。

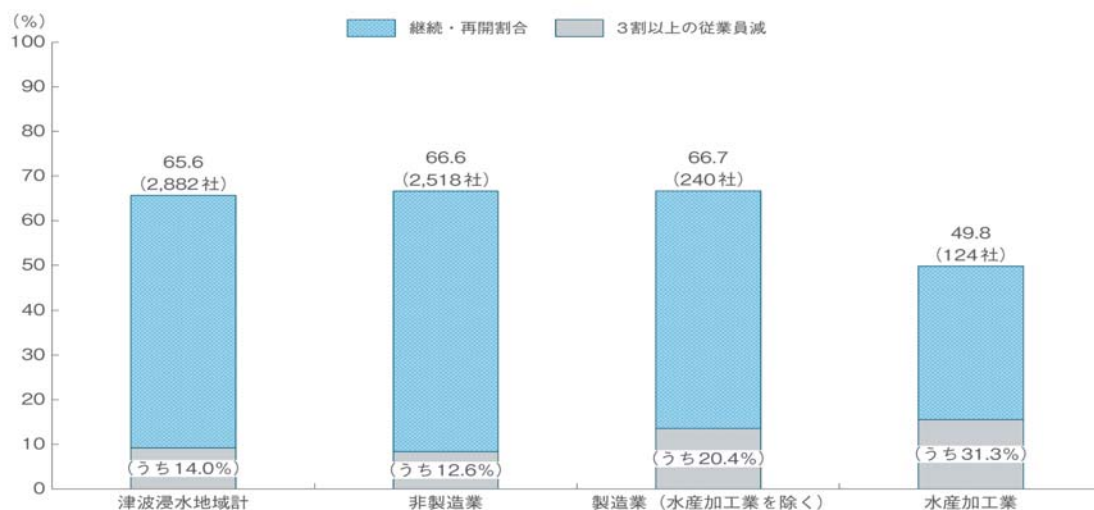
東北地方の自動車関連企業等の分布



資料：東北経済産業局「東北の自動車関連企業マップ」、
「東北地域工業団地検索システム」から中小企業庁作成

- (注) 1. 自動車関連企業マップ作成時に、企業概要の掲載を辞退した企業等は表示されていない。
2. 工業団地は、工業団地及び産業界業務団地、研究・教育機関は、大学・工業高等専門学校・公設試験研究機関等を示している。

業種別の事業の継続・再開の状況と大震災以前と比較した従業員数の状況



資料：中小企業庁委託「東日本大震災の影響を受けた中小企業の実態に関する調査」(2012年1月、(株)帝国データバンク)

(注) 継続・再開と回答した企業のうち、従業員数の変化について回答を得た企業数を母数として、従業員数の変化の割合を算出している。